

Vertex Standard

転送ユーティリティ ガイド(REV 2.0)

YSB シリーズ バーコードハンディターミナル

八重洲無線株式会社 システム機器事業部

目次

1	はじめに	2
2	動作環境	2
3	インストール	2
4	アンインストール	2
5	起動	2
6	操作方法	3
7	通信の種類と設定	8
8	ファイル仕様	9

1 はじめに

YSB シリーズ転送ユーティリティは、パソコン上で作成したプログラムファイル、データファイルを YSB 本体にダウンロードする場合、または YSB 本体のプログラムファイル、データファイルをパソコンにアップロードする場合に使用します。通信は、RS232C、光ポート、IrDA 仮想 COM ポートおよび無線で行うことができます。

YSB 本体の操作については、「YSB シリーズユーザズマニュアル」を併せてお読みください。

ダウンロードとは、パソコンより YSB 本体へファイルを転送することです。
アップロードとは、YSB 本体からパソコンへファイルを転送することです。
無線で転送を行う場合は、YSM2400D/DN のモードセレクト SW の 8 は、必ず OFF にしてください。

2 動作環境

日本語 Windows 95/98 および NT4.0 で動作します。

3 インストール

開発キット CD の "YAESU ¥ 転送 UTY" ディレクトリの SETUP.EXE を実行します。あとは、画面の指示に従ってインストールを進めて下さい。インストールが終了すると YSB 転送ユーティリティが追加されます。

4 アンインストール

コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で「YSB 転送ユーティリティ」を選択し、[追加と削除] をクリックします。

5 起動

WINDOWS の「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム → YSB 転送ユーティリティ」を選択します。

6 操作方法

設定

転送を行うポートを設定します。

YSB転送ユーティリティ

アップロード(U) | バージョン(H)
設定(S) | ダウンロード(D)

RS-232C

ポート(C) | COM1

ボーレート(B) | 115200

データビット(A) | 8

ストップビット(J) | 1

パリティビット(P) | N

種類(R) | 無線

無線の相手先設定 YCU-50

ゲルーフ番号(G) | 1 LAN無線

ID番号(I) | 1,2,3,4

アップロード時、自局から接続する(K)

終了(O)

- ・ **ポート**
使用するポートを選択します。RS232C&IrDA、YCU-50 の場合に選択します。
- ・ **ボーレート**
通信速度を選択します。RS232C、YCU-50 の場合に選択します。
IrDA で通信する場合は選択不要です。
- ・ **データビット**
データ長を指定します。RS232C、YCU-50 の場合に選択します。
IrDA を使用する場合は選択不要です。
- ・ **ストップビット**
ストップビット長を指定します。RS232C の場合に選択します。
IrDA を使用する場合は選択不要です。

- ・ **パリティビット**

パリティを選択します。RS232C の場合に選択します。
IrDA を使用する場合は選択不要です。

- ・ **種類**

- ・ **RS232C & IrDA**

パソコンの RS232C ポートまたは IrDA ポートを使って転送します。

- ・ **YCU-50**

光通信アダプタ YCU-50 を経由してアップロード・ダウンロードを行います。

- ・ **無線**

パソコンの RS232C ポートに YSM-2400D を接続して、無線でアップロード・ダウンロードを行います。

- ・ **LAN無線**

パソコンから LAN に接続している YSM-2400DN を経由して、無線でアップロード・ダウンロードを行います。

無線及び LAN 無線を指定した場合は “無線の相手先設定” の設定を行います。

- ・ **グループ番号**

グループ番号を 1 グループ指定します。

- ・ **ID 番号**

ID 番号を指定します。複数台指定するときは、”,” で区切って指定します。

例) 1,2,10,20,30,50

- ・ **アップロード時、自局から接続する**

アップロードのときはじめの起動を自局からかけるか、相手からの要求を待つかを指定します。通常は、チェックをつけて使用します。

自局から接続するにチェックをしたときは YSB の [SYSTEM MODE] → [2:Set]
→ [7:Loader] → [2:Set Rf Loader] の [Rf UpLoad Start] の設定を [1:Partner]
(デフォルト設定) にして下さい。

自局から接続するにチェックをしないときは YSB の [SYSTEM MODE] → [2:Set]
→ [7:Loader] → [2:Set Rf Loader] の [Rf UpLoad Start] の設定を [1:Private]
にして下さい。

LAN 無線選択の場合にモデムの LAN の設定します。

・ **モデム IP アドレス**

LAN に接続されているモデムの IP アドレスを設定します。

・ **モデムポート**

LAN に接続されているモデムのポートを設定します。

The screenshot shows a window titled "YSB転送ユーティリティ" (YSB Transfer Utility). It contains the following settings:

- アップロード(U) 設定(S) | パーソナル(H) | ダウンロード(D)
- LAN
- モデム IP アドレス(E) | 192.168.1.255
- モデム ポート(E) | 1111
- 種類(R) | LAN無線 (dropdown menu)
- 無線の相手先設定
- グループ番号(G) | 1
- ID番号(I) | 1,2,3,4
- アップロード時、自局から接続する (K)
- 終了(O) (button)

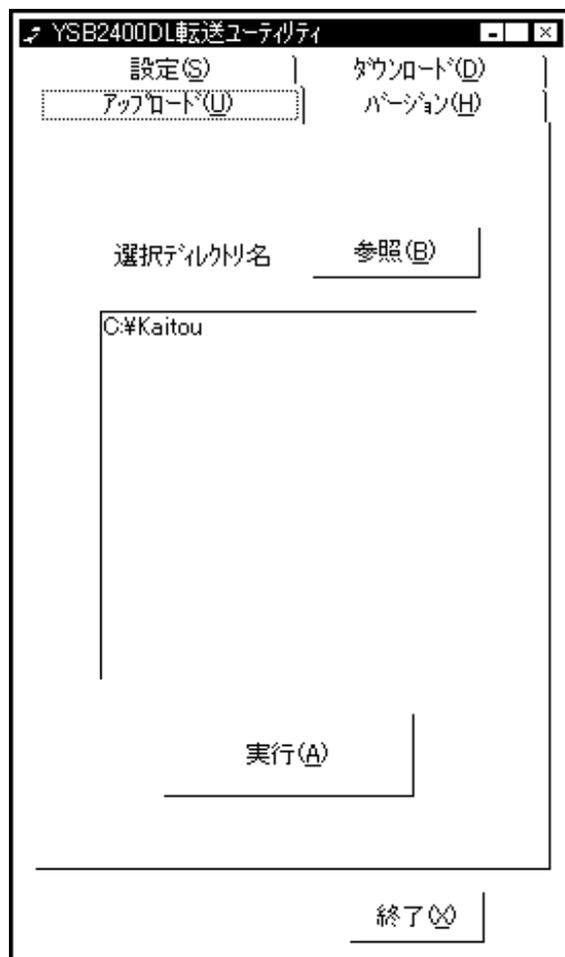
・ダウンロード

ファイルを指定して、[実行] をクリックします。



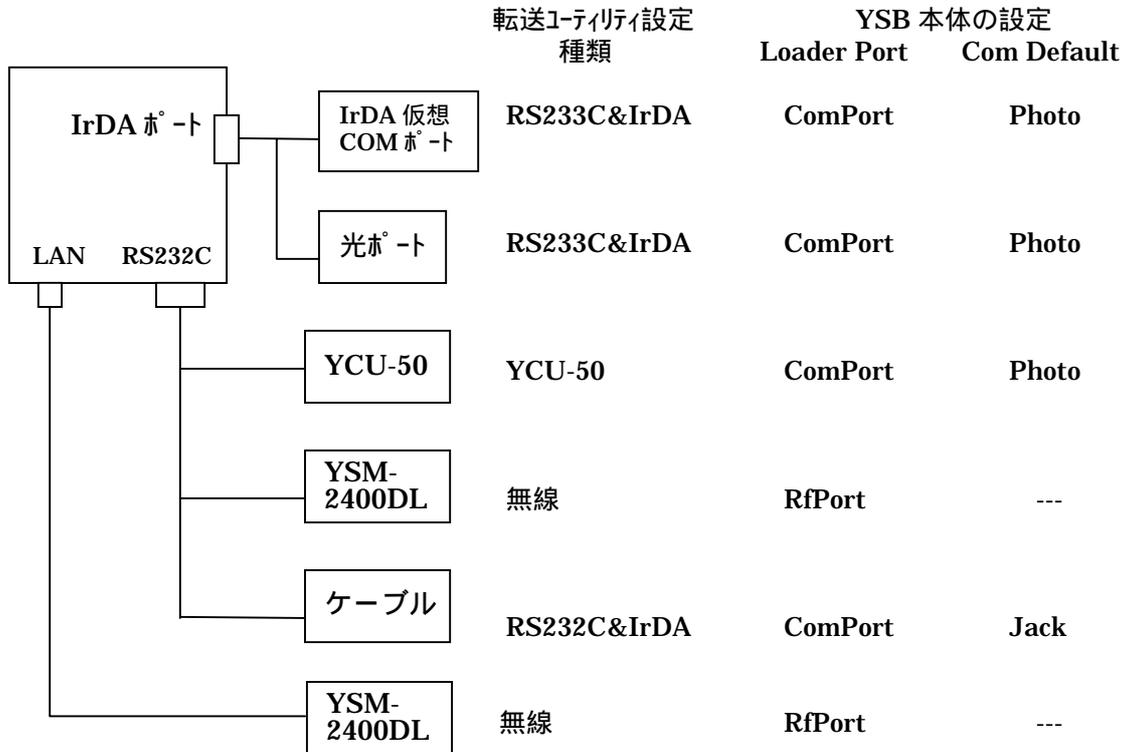
・アップロード

ファイルを格納するディレクトリを指定して、[実行] をクリックします。



7 通信の種類と設定

通信の種類により、設定を合わせる必要があります。



YSB 本体の設定方法

Loader Port の設定

[SYSTEM MODE] → [Set] → [Loader] → [Set Loader Port] で設定します。

Com Default の設定

[SYSTEM MODE] → [Set] → [Com] → [Set Default] で設定します。

詳しくは、「YSB シリーズユーザーズマニュアル」を参照して下さい。

8 ファイル仕様

各ファイルを構成する場合の仕様として、ファイルを構成するそれぞれのレコードの区切り情報には、[CR (0 D H)][LF (0 A H)] コードが、また、ファイルの終端の情報として [EOF (1 A H)] コードが付加されているものとなります。

転送ユーティリティにより取り扱われるプログラムファイルとデータファイルでは、次のコードは使えません。

NULL	(00H)
SOH	(01H)
STX	(02H)
ETX	(03H)
ENQ	(05H)
ACK	(06H)
LF	(0AH)
CR	(0DH)
XON	(11H)
XOF	(13H)
NAK	(15H)
ETB	(17H)
EOF	(1AH)

プログラムファイルおよび、データファイルを構成する上での各仕様を次に説明します。

プログラムファイルの仕様

YSB 本体へアップロードする為のプログラムファイルを作成する場合は、次に示す仕様条件に従わなければなりません。

- a . プログラムファイルを作成する場合は、リファレンスマニュアルの開発環境と手順に記述されている方法で作成した、モトローラ S タイプオブジェクトのファイルでなければなりません。

詳細についてはリファレンスマニュアルを参照して下さい。

- b . プログラムファイル名は主ファイル名（拡張子を除く部分）は 1 から 8 文字の範囲で指定します。

ファイル名として使用できる文字は次に提示する範囲となります。

アルファベット	:	A ~ Z (大小文字の判別は行わない)
文字	:	0 ~ 9
記号類	:	\$、&、#、%、(、)、-、@、^、{、}、_、!、'、_
カタカナ	:	ア ~ ン

- c . プログラムファイル名の拡張子は、「.MOT」でなければなりません。

データファイルの仕様

YSB 本体へアップロードする為のデータファイルを作成する場合は、次に示す仕様条件に従わなければなりません。

- a . データファイル名の主ファイル名（拡張子を除く部分）は 1 から 8 文字の範囲で指定します。
ファイル名として使用できる文字は次に提示する範囲となります。

アルファベット	:	A ~ Z (大小文字の判別は行わない)
文字	:	0 ~ 9
記号類	:	\$、&、#、%、(、)、-、@、^、{、}、\、!
カタカナ	:	ア ~ ン

- b . データファイル名の拡張子は「.MST」または「.DAT」でなければなりません。また、次に示すファイル名は J u s t P a c k で使用しますのでデータファイル名に使用することはできません。

```
P A C K _ 1 . D A T
P A C K _ 2 . D A T
P A C K _ 3 . D A T
P A C K _ 4 . D A T
P A C K _ 5 . D A T
P A C K _ 6 . D A T
P A C K _ 7 . D A T
P A C K _ 8 . D A T
J U S T . D A T
```

「.MST」と「.DAT」は拡張子の違いだけです。YSB 本体内でのファイルの扱いに違いはありません。

- c . 1レコードの構成は、1から256バイトで無ければなりません。1レコードの区切り情報は、[C R (0 D H)] [L F (0 A H)] コードとなります。
- d . 1ファイルを構成するレコード数は、1から32768件でなければなりません。
- e . ファイルの終端の情報は [E O F (1 A H)] コードとなります。

例えば、1レコード長が128バイトで、レコード数が100件であるファイル名
DATA.DATのファイル構成は次に示すようになります。

1	128バイト	CR	LF
2	128バイト	CR	LF
3	128バイト	CR	LF
4	128バイト	CR	LF
5	128バイト	CR	LF
⋮	⋮		
98	128バイト	CR	LF
99	128バイト	CR	LF
100	128バイト	CR	LF
EOF			

ファイル終端を表す

レコードの終端を表す

上記に示すように1レコード長が128バイトのレコードを作成する場合、必ず
128バイト分のデータを書き込まなければなりません。

E13620300